

一般社団法人日本地質学会2016年度総会記事

一般社団法人日本地質学会 2016年度総会議事録

以下のとおり、2016年度定時社員総会を開催した。

日時 2016年5月21日（土）14：15～15：15
会場 北とびあ 第2研修室（東京都北区王子1-1）

- 総会開催にあたり本日出席の代議員から、議長として仲谷英夫代議員、副議長として澤口 隆代議員を選出した。
- 議長は審議開始に際し、書記として加藤潔代議員ならびに亀高正男代議員を指名し、また、同時に議事録署名人として、両名を指名した。

議長は、本日の出席者数を確認し、総会定足数である代議員の過半数61名をこえる出席者があるので成立している旨宣言し、議事に入った。

代議員（=社員）総数 120名
議決権総数 120個
出席者数（委任状、議決権行使者含む）96名 この議決権総数 96個
出席役員 代表理事（会長）：井龍康文
理事：渡部芳夫（副会長）山本高司（副会長）
理事：天野一男 安藤寿男 安間 了市川八州夫 ウォリス サイモン 緒方信一 川端清司 清川昌一 齋藤眞 坂口有人 佐々木和彦 菖蒲幸男 杉田律子 高橋正樹 竹内 誠 竹下徹 千代延俊 内藤一樹 中澤 努 原山 智 廣木義久 星 博幸 保柳康一 松田達生 松田博貴 向山 栄矢鳥道子 山田泰広 山路 敦
監事：青野道夫 山本正司
以上 理事32名、監事2名

1号議案 2015年度事業報告・決算報告

1) 齋藤眞常務理事より、資料に基づき2015年度事業報告の概要（会員の動静、学会運営に関する諸集会および委員会などの活動、学会の行事・事業について）および各賞受賞者に関する説明がなされた。その内、選挙規則の改正（理事の補欠補充について）は、次期総会にて審議したいとの報告がなされた。

2015年度内および総会開催の本日までに逝去された（逝去が判明した）会員20名（その内名誉会員7名）に対し、黙祷を捧げた。

出席代議員より、ロンドン地質学会から刊行された「Geology of Japan」出版につ

いての事業報告への追記、各賞受賞理由の推薦文の加筆・修正について意見が出された。

2) 緒方信一理事より、決算報告の概要が説明された。2015年度については収支のバランスがとれているとの報告がなされた。

その後、山本正司監事より会計監査の実施報告があった。会計は適正に処理されているとの報告があった。

本議案については、一部事業報告および各賞の表彰理由についての加筆・修正を受けたが、全会一致で承認された。

2号議案 代議員および理事・監事選挙結果報告

金澤直人選挙管理委員会委員長の代行、上原康弘委員より、代議員および理事選挙結果報告があった。なお、各選挙での次点者の有無についても報告があり、地方支部区の理事選挙で中部支部区にのみ次点者が1名選出され、中部支部区理事に欠員が生じた場合は、当該の次点者が繰り上げ当選となることが報告された。

本議案については、特に質疑応答はなく、全会一致で承認された。

*新役員名簿は巻末に添付

3号議案 2016年度事業計画

井龍康文会長より、2015年度の本学会の事業成果を踏まえ、2016年度の事業計画の基本方針が示された。

出席代議員より、地方自治体への地質系学生採用の働きかけや、今後の和文誌としての地質学雑誌のあり方などに関する意見・要望があった。

本議案については、特に反対意見はなく、全会一致で承認された。

4号議案 2016年度予算案

緒方信一理事より、2016年度予算案について、会員数減少による会費収入の減少が見込まれる旨の説明がなされた（会員数減少の理由についても言及された）。前年度に比較して、支部・部会等活動事業（主に関東支部活動費）、地質調査研修事業、普及事業の印刷製本費支出が減少する旨の説明がなされた。また、日大LOC（東京・桜上水大会会場費無料）への謝意が示された。

本議案については、特に質疑応答はなく、全会一致で承認された。

5号議案 名誉会員の選出

名誉会員推薦委員会委員長、山本高司副会長より、推薦理由の概要が説明され、2016年度名誉会員候補者として熊井久雄会員を選出した旨の報告がなされた。

本議案については、特に反対意見はなく、全会一致で承認された。

以上をもって審議を終了し、井龍康文会長による会長退任の挨拶があった後、議長は閉会を宣言した。

2016年5月21日

以上、決議を明確にするためにこの議事録を作成し、議長、副議長および出席代議員、理事がこれに記名、押印する。

一般社団法人日本地質学会2016年度総会

総会議長 仲谷英夫

総会副議長 澤口 隆

議事録署名人

代議員 加藤 潔

代議員 亀高正男

代表理事 井龍康文

理 事 齋藤 眞

2015年度事業経過報告

1. 報告事項

1) 会員の動静

2016年4月末現在の会員は、賛助会員27社、名誉会員56名、正会員3626名（うち院生割引103名、学部割引6名）、会員総数3709名、2015年4月末と比べて43名の減少であり、その内訳は次のとおりである。

入会者 166（賛助 0社、正会員 166名〔うち院生割引 102名、学部割引 16名〕）

退会者 129（賛助 1社、正会員 128名〔うち院生割引 1名、学部割引 0名〕）

除籍者 61（正会員 61名）

逝去者 19（名誉会員 7名、正会員 12名）
名誉会員：猪木幸男（2015/5/9）、
初倉克幹（5/15）、下山俊夫（7/19）、
小島郁生（9/19）、勝井義雄（10/20）、
倉林三郎（12/3）、岩崎正夫（2016/3/31）

正会員：赤木三郎（2014/2/5）、小野寺信吾（2014/12/29）、押手 敬（2015/1/19）、山中 博（1/26）、角田寛子（3/17）、竹内一郎（5/1）、岸 清（8/20）、古川博恭（10/17）、尾田太良（10/25）、松葉千年（12/1）、山形 理（2016/1/22）、渡邊 健（1/28）、西川 功（2/23）、

2) 学会運営に関する諸集会及び委員会等の活動

<2015年度定時総会>

日時：2015年5月23日 14:50～15:50

会場：北とびあ 第1研修室
議決権のある社員総数 121名（定足数：61名）、議決権の数 121個

出席社員数（委任状および議決権行使書提出者を含む）94名、

議決権の総数 94個、出席理事 31名、出席監事 1名

審議事項：1）2014年度事業報告・決算報告、2）2015年度事業計画、3）2015年度予算案、4）名誉会員の選出、いずれの議案も賛成多数で承認。

<委員会等の開催>

- ・執行理事会（11回）議事内容、報告等については、随時HP、ニュース誌に掲載
- ・理事会（4回）議事内容、報告等については、随時HP、ニュース誌に掲載
- ・その他委員会（メールによる会議を含め、随時開催）

3）学会の行事・事業

1. 日本地質学会第122年学術大会

会期：2015年9月11日～13日

会場：信州大学（長野・工学）キャンパス
参加者：922名（会員771名、非会員151名）

- ・一般発表：578件（口頭343件、ポスター235件）
- ・シンポジウム：3件（口頭22講演、S3シンポジウムのみポスター5講演）
- ・アウトリーチセッション：ポスター4件
- ・優秀ポスター賞の授与：10件
- ・巡検：実施8コース
- ・ランチョン：専門部会を中心に11件
- ・夜間小集会：11件
- ・若手会員のための業界研究サポート：2015年9月12日、参加企業・団体：12社

<日本地質学会各賞の授与式・記念講演会>

日時：9月11日（土）、会場：メルパルク長野1Fホール

- ・来賓挨拶 羽羽貞幸氏（信州大学副学長）
- ・台湾地質学会との学術交流協定調印式（劉 螢三会長）
- ・日本地質学会小澤儀明賞受賞スピーチ：辻 健（九州大学カーボンニュートラル・エネルギー国際研究所）「地質学に貢献する地震探査」
- ・日本地質学会賞受賞記念講演：脇田浩二（山口大学大学院理工学研究科）「地質図とともに一付加地質図とシームレス地質図」

<年会関連行事>

- ・地質情報展2015ながの—知っていますか信濃の大地— 2015年9月11日～13日、参加者：353名
- ・市民講演会「信州の自然とともに生きる—地震と火山の防災地学—」2015年9月12日、参加者：190名、講師：三宅康幸、塚原弘昭
- ・地学教育委員会：小さなEarth Scientistのつどい～第13回小・中・高校生生徒地学研究発表会：2015年9月13日、参加校13校1団体、18件、うち3件に優秀賞を、

4件に奨励賞を授与。第14回理科教員対象巡検（地学教育・アウトリーチ巡検）：2015年9月13日、「コース2：海だった長野の生い立ちを学ぶ」案内者：田辺智隆

2. 地質の日本部イベント

- ・街中ジオ散歩 in Tokyo「等々力溪谷の地質と人の関わり」徒歩見学会（日本応用地質学会との合同主催行事）：2015年5月10日、参加者31名、後援：世田谷区教育委員会、一般社団法人東京都地質調査業協会、見学コース：等々力溪谷（上総層群、東京層、東京軽石、武蔵野礫層）、等々力不動（武蔵野面、立川面）、丸子川（六郷用水）、多摩川（河川敷の石観察）、玉川野毛町公園（野毛大塚古墳）、講師：鈴木毅彦、中山俊雄、寺田良喜
- ・第6回惑星地球フォトコンテスト表彰式：2015年5月23日、北とびあ、審査委員長：白尾元理
- ・惑星地球フォトコンテスト入賞作品巡回展示（2015年4月～2016年3月）／山口大学サイエンスの小道 2015年5月1日（金）～29日（金）[第5回入選作品]／銀座プロムナードギャラリー 2015年6月13日（土）～27日（土）[第6回入選作品]／NPC日本印刷（株）1階ギャラリースペース 2015年8月3日（月）～14日（金）[第6回入選作品]／地質情報展2015ながの 2015年9月11日（金）～13日（日）[第6回入選作品]／あいちサイエンスフェスティバル 2015年9月19日（土）～11月8日（日）[第6回入選作品]

3. 地質調査研修

研修地域：「千葉県君津市及びその周辺地域（房総半島中部域）」

春季：5/18（月）～5/22（金）、秋季：11/9（月）～11/13（金）

参加者：12名（各季とも6名ずつ）

共催：産業技術総合研究所地質調査総合センター
講師：徳橋秀一、講師補佐：小松原純子〔春季〕、宇都宮正志〔秋季〕（産業技術総合研究所）

4. 地質学者に答えてもらおう（2012年3月～運用開始）

運用開始からの質問件数の総数は89件（うち、2015年度中に届いた質問は20件）。主な質問と回答は学会HPにて公開中。

4）出版物の刊行

<地質学雑誌>

- ・121巻4号（2015年4月）～122巻3号（2016年3月）を刊行した。総ページ数は474ページ。
- ・地質学雑誌補遺：鹿児島大会巡検案内書CD-ROM版（8月号）

<日本地質学会ニュース>

・18巻4号（2015年4月）～19巻3号（2016年3月）を発行した。総ページ数は364ページ。

<Island Arc>

・Island Arc 編集委員会の編集により、Wiley社よりVol.24, Issue 2～Issue 4, Vol.25, Issue 2を刊行した。総ページ数は542ページ。

<ジオルジュ>

・前期号（2015年5月）、後期号（同年11月）各20ページを発行。

<リーフレット>

- ・たんけんシリーズ3「城ヶ島たんけんマップ」2015年8月増刷（第3刷、3000部）。
- ・たんけんシリーズ5「長瀬たんけんマップ—荒川が刻んだ地球の窓をのぞいてみよう—」2016年2月20日発行。

<その他>

・日本地方地質誌7「四国地方」（朝倉書店）2016年2月25日発行。

5）関連外部委員会への協力

下記の関連外部委員会等に対して本学会から選出された委員を通じて、これまでに引き続きそれぞれの活動、関連学会の発展と連携に協力した。

日本地球惑星科学連合：評議員（井龍康文）、連絡委員（緒方信一）、プログラム委員（沢田 健、小宮 剛）、ダイバーシティ推進委員会（宮下由香里）、環境・災害対応委員会-災害の委員（川畑大作）、環境・災害対応委員会-環境の委員（小荒井 衛）、ジャーナル企画経営委員（井龍康文）、ジャーナル編集委員（ウォリス サイモン）、自然史学会連合（斎木健一）、土質・地質技術者生涯学習協議会（CPD）（山本高司）、日本技術者教育認定機構（JABEE）（天野一男）、地質の日事業推進委員会（委員長：平田大二、副委員長：中澤 努）、アイソトープ・放射線研究発表会運営委員会（運営委員、小宮 剛）、日本ジオパーク委員会（委員 平田大二）、（NPO）地学オリンピック日本委員会広報小委員会（坂口有人）、地質・地盤情報活用推進に関する法整備推進協議会（2016年3月にて事業終了、委員：小嶋 智、利活用WG：松浦一樹、広報WG：澤口 隆）、放射性廃棄物の地層処分技術WG（委員、渡部芳夫）、第4回アジア太平洋ジオパークネットワーク山陰海岸シンポジウム組織委員会（顧問、井龍康文）、国際地学オリンピック三重大会組織委員会（井龍康文）など。

6）その他報告事項（主に他学協会との共催・後援、協賛行事など、開催時期に関わらず2015年度内において承認したもの）※そのほかはNews誌、HPに掲載の執行理事会議事録、理事会議事録参照。

<他学協会などからの依頼>

- ・朝永振一郎記念第10回「科学の芽」賞

(筑波大学、募集期間：8/20-9/30)の後援。

- ・三浦半島活断層調査会「城ヶ島観察会」(5/23)の後援。
- ・四国支部「地質の日-岩石・鉱物鑑定会」(5/10)の後援。
- ・国際シンポジウム「沈み込み帯堆積盆地のリソスフェア・ダイナミクス」(委員長：佐藤比呂志、10/5-7)の後援。
- ・国際化石藻類学会「第11回国際化石藻類シンポジウム」(9/14-19)の後援。
- ・群馬県自然史博物館、第49回企画展「恐竜時代の海の支配者」の後援。
- ・日本科学技術振興財団「青少年のための科学の祭典2015」(6/13-2016/03/31、全国81会場)の後援。
- ・ゼオライト学会「第31回ゼオライト研究発表会」(11/26-27)の協賛。
- ・日本粘土学会「第549回粘土化学討論会」(9/2-5)の共催。
- ・日本原子力学会「原子力シンポジウム2015」(7/16)の共催(委員：緒方信一理事)。
- ・地球惑星科学連合大会でのネパール地震緊急セッションに対し、地震学会と環境災害対応委員会との共催を承諾。(ポスター発表者：酒井治孝)。
- ・新潟大学学術情報基盤機構旭町学術資料展示館、企画展示「殻が作る世界」(7/11-8/28)の後援。
- ・日本地下水学会、シンポジウム「地下水の保全、涵養及び利用に関する法制化に向けた現状と課題」(7/4、日本大学)の後援。
- ・全地連および経済調査会共催「地質調査要領説明会」(9/30-11/2、全国7か所で8回の説明会を開催)の後援。
- ・日本地球化学会第62回年会(9/16-18、横浜国大)の共催。
- ・第13回高校生科学技術チャレンジ(JSEC2015)の後援(作品募集期間：9/1~10/5)。
- ・こどものためのジオカーニバル企画委員会(代表者：廣木義久)、第16回こどものためのジオ・カーニバル(11/1-2、大阪市)の後援。
- ・日本学術会議地球惑星科学委員会IUGS分科会主催「ジオハザードに対処できる人材の育成：防災国際ネットワーク構築に向けた国内連携のあり方」ワークショップ(11/20)の後援。
- ・日本学術会議地球惑星科学委員会地球・人間圏分科会、土木工学・建築学委員会学際連携分科会主催、公開講演会「強靱で安全・安心な都市を支える地質地盤—あなたの足元は大丈夫?—」(2016/1/23)の後援。
- ・地下水学会主催セミナー「東京電力福島第一原子力発電所事故による周辺水環境への影響—現状と課題—」(11/24)後援。
- ・2016JpGUへの地質学会主催・共催セッ

ション：各専門部会から11のセッション提案があり、主催および共催を承認。

- ・三浦半島活断層調査会(会長：茅野教幸)、「城ヶ島観察会」(11/15)への後援。
- ・日本アイソトープ協会、第53回アイソトープ・放射線研究発表会(2016/7/6-8、東京大学弥生講堂)への共催(運営委員長：小宮 剛理事)。
- ・Techno Ocean 2016(2016/10/6-8、同実行委員会委員長：大塚耕司(大阪府立大教授))の協賛。
- ・ジオパーク新潟国際フォーラム(2016/7/27-29：新潟市、実行委員長：米田徹(糸川川ジオパーク協議会))の後援。
- ・医療地質-地質汚染-社会地質学会主催、第25回環境地質シンポジウム(11/27-28、日大)への共催。
- ・産総研地質標本館より、地質学会のフォトコン展示会開催(2016/4/19-5/22)についての共催を承認。同所において、表彰式と講演会も実施。
- ・第15回国際放散虫研究集会(15th InterRad)(委員長：松岡 篤、2017/10/23-27)の共催。
- ・3th International Geoscience Symposium“Precambrian World 2：Earth through History”(2017/3/3-9、代表：清川昌一)の共催。
- ・JAMSTEC海洋掘削科学研究開発センター(ODS)「科学掘削シンポジウム&スクールin 台湾」(2016/02/01-04)の共催。
- ・「第1回台日地質学会総合学術検討会」(2016/5/18午前、世話人：林殿順、保柳康一)の共催。
- ・第60回粘土科学討論会(2016/9/15-17、九州大学)の共催。
- ・愛媛大学ミュージアム企画展「四国の鉱物展」(四国支部共催、2016/3/2-4/27)への後援。
- ・日本学術会議主催「原子力総合シンポジウム2016-福島第一原発から5年」の共催。
- ・科学教育研究協議会「第63回全国研究大会」(2016/8/6-8、静岡大)の後援。
- ・第14回岩の力学国内シンポジウム(実行委員会委員長：芥川真一、2017/1/10-12、神戸大学)への協賛。
- ・ジオ神奈川(代表：蟹江康光)、観察会「城ヶ島の関東大震災」(2016/5/7)の後援。
- ・朝永振一郎記念第11回「科学の芽」賞(筑波大学、募集期間：2016/8/20-9/30)の後援。
- ・三浦半島活断層調査会、「城ヶ島観察会」(2016/5/22)の後援。
- ・大阪市立自然史博物館、第47回特別展「氷河時代—化石でたどる日本の気候変動」(2016/7/16-10/16)の後援。
- ・日本科学技術振興財団「青少年のための科学の祭典2016」(2016/6/11-2017/1

/28、全国76会場)の後援。

- ・日本地球化学会、第63回年会(2016/9/14-16、大阪市大)の共催。
- ・北海道博物館、第2回特別展「ジオパークへ行こう！恐竜、アンモナイト、火山、地球の不思議を探そう旅」(2016/7/9-9/25)の後援。
- ・愛媛大学ミュージアム・理学部主催、企画展示「愛媛県の石—岩石・鉱物・化石」(2016/5/10-9/19)の後援。

＜他学協会などへ依頼＞

- ・第122年学術大会：長野大会の巡検(プレ：9/10、会期中：9/13、ポスト：9/14-15)について、関連学協会15団体に協賛を依頼し、いずれの学協会からも承認された。
- ・「西日本地質講習会(CPD講習会)」(講演会：6/11(木)、巡検：6/12(金)、山口大学)：西日本支部と山口大学理学部地球圏システム科学科との共催で実施された。
- ・「2015年度春季・秋季地質の調査研修」(春季：5/18~22、秋季：11/9~11/13実施)について、産業技術総合研究所との共催を依頼し承諾された。
- ・第7回惑星地球フォトコンテストについて、後援および協賛が承諾された。()は後援および協賛金。後援：日本ジオパークネットワーク(3万円)、深田研ジオ鉄普及委員会(1万円)協賛：株式会社ウィンディーネットワーク(5万円)
- ・第123年学術大会：東京・桜上水大会のセッション共催：堆積地質部会に関わる4セッションについて、日本堆積学会、石油技術協会探鉱技術委員会と日本有機地球化学会から共催が承諾された。R9：堆積物(岩)の起源・組織・組成／R10：炭酸塩岩の起源と地球環境／R11：堆積過程・堆積環境・堆積地質／R12：石油・石炭地質と有機地球化学
- ・「第二回西日本地質講習会(CPD講習会)」(講演会：2016/6/1(水)、巡検：6/2(木)、山口大学)：西日本支部と山口大学理学部地球圏システム科学科との共催で実施される。

7) 支部の活動

＜北海道支部＞

1. 2015年度「地質の日」記念展示(4/28~5/31)
- ・北海道大学総合博物館企画展示「札幌の過去に見る洪水・土砂災害」
『地質の日』企画展示実行委員会の主催。北海道大学総合博物館・日本地質学会北海道支部・(独)産総研地質調査総合センター・(地独)北海道立総合研究機構地質研究所・北海道博物館・札幌市博物館活動センター・北海道地質調査業協会との共催。国土地理院北海道地方測量部・株式会社シン技術コンサル・株式会社アイビー地

質情報室・宇宙システム開発利用推進機構などの協力を得た。

- ・市民対象の地質巡検「札幌の洪水跡を訪ねる」を実施（5/24）。参加者30名。

- ・土曜市民セミナー：

（1）笠原 稔：5/2「札幌周辺の地震活動」。参加者53名。

（2）田近 淳：5/9「札幌市民が学ぶ広島土砂災害」。参加者 約32名。

2. 北海道支部総会・支部例会

- ・総会（2016/2/27）於北海道大学理学部。出席者32名。招待講演会「北海道における防災地質学の最前線」（講師：山崎新太郎〔北見工業大学工学部社会環境工学科・助教〕）も行った。

- ・例会（2015/6/13）於北海道大学理学部。参加者59名，個人講演14件，招待講演1件。招待講演会「原発敷地内活断層評価（とくに東通原発）に関わる科学上の問題点」，および討論会も実施。（講師：大槻憲四郎〔東北大学・名誉教授〕）

3. 北海道支部巡検

- ・春の日帰り巡検「裏山の地質災害～支笏湖・苔の洞門」（2015/6/20）。見学コース：苔の洞門（洪水堆積物，火砕流堆積物）～支笏湖湖岸段丘～支笏湖ビジターセンター。参加人数：計28名（院生・学生は9名）。

4. 北海道地質百選検討

- ・ウェブ運用：前年度より公開サーバ用PC不調のため，追加登録・アクセスログの取得が出来ない状態のため，対応検討中。
- ・「北海道地質百選（仮称）」の出版：2016/1/23の執行理事会を経て4/2の理事会で「北海道地質百選（仮題）」の出版承認。2016年4月末の発刊を目指す。

5. ジオパーク支援活動

- ・アポイ岳ジオパークはグローバルジオパークネットワーク（GGN）の審査を受け，世界ジオパークに新規認定された（9/19）。
- ・十勝岳山麓地域（美瑛町・上富良野町）が日本ジオパークネットワークの準会員となった（5/1）
- ・当支部所属のジオパーク支援委員（廣瀬）は，ジオパークを目指す旭川地域に対しジオパークの最新の動向について講演した。また，道内ジオパークおよびジオパークを目指す地域に対して，ジオパーク活動・審査などについて随時アドバイスを行った。

<東北支部>

1. 地質学会東北支部巡検「南部北上帯のカンブリア紀・オルドビス紀花崗岩類とシルル・デボン系」（8/1-2），参加者21名，案内者：土谷信高・佐々木 惇（岩手大），永広昌之（东北大），栗原敏之（新潟大），小山内康人（九州大）。

2. 2016年度から事務局は弘前大学が担当。

<関東支部>

1. 地質技術伝承講演会（4/18（土），会

場：北とびあ）「活断層を調査する技術者の基盤【トレンチ調査編】」講師：（株）ダイヤコンサルタント関東支社副社長 斎藤勝，共催：関東地質調査業協会，参加者：74名

2. 地質見学会

- ・第6回ミニ巡検 箱根（7/12（日）），参加者20名，案内者：山口珠美（箱根ジオミュージアム），青山朋史（箱根町箱根ジオパーク事務局）

- ・教師巡検 秩父（8/11（火）～12（水）），参加者：6名＋1名（1日参加），案内者：小幡喜一（埼玉県立熊谷高校）
- ・富士山巡検 富士山西～南西麓（10/17～18），参加者：29名，案内者：山元孝広（産業技術総合研究所），吉本充宏（山梨県富士山科学研究所），千葉達朗（アジア航測（株））

3. ショートコース

- 地すべり試験，国土防災技術（株）試験研究所（2015/10/31（土）），参加者14名，講師：長谷川陽一（国土防災技術（株））
- 4. シンポジウム
第4回地質研究サミット「ジオハザードと都市地質学」日本大学文理学部図書館オーバルホール（11/23（月）），参加者83名，講師：遠藤邦彦（日大名誉教授）・千葉達朗（アジア航測（株））・平田 直（東大地震研）・高橋正樹（日大）・徳永朋祥（東大）・木村克己（防災科研）・竹村貴人（日大）・三上岳彦（首都大東京名誉教授）・有馬秀人（世田谷区），後援：世田谷区，世田谷区教育委員会，（一社）関東地質調査業協会

5. フィールドキャンプ

- 千葉県鴨川市清澄東大演習林（9/1（火）～7（火））京都大学と同時開催，参加者3名
- 6. サイエンスカフェ
噴火列島（富士山編）～あなたは備えていますか（10/25（日）），下高井戸アグリオ（ビアバー），参加者27人，講師：吉本充宏（山梨県富士山科学研究所）
- 7. 2016年地質学会大会開催準備
巡検旅行検討（6/22（月），8/17（月））
家族巡検下見・等々力溪谷（7/17（金））
防災施設巡検検討（8/17（月））
長野大会LOC打合せ（9/12（土））
大会全体の打ち合わせ（10/10（土））

8. 支部活動

- ・支部総会（2016/4/16（土），会場：北とびあ）：活動報告，会計報告，活動計画，予算案
- ・支部功労賞授与（2件3団体）：露頭保存：大井町・（株）古川，千葉県立中央博物館
- ・幹事会：10回開催（1回/月程度）
- ・後援：東京都2015講演会・地質見学会（（一社）東京都地質調査業協会）
- ・協力：地質の日イベント 街中ジオ散歩 in Tokyo「等々力溪谷の地質と人の関わり」（5/10）

<中部支部>

1. 中部支部総会（6/13（土），黒部市吉田科学館）参加者18名
2. 講演会等（6/14（土），黒部市吉田科学館）シンポジウム「中部地方のジオパーク—ジオツア—の安全安心—」（発表5件），研究発表（口頭：7件，ポスター：11件），懇親会，参加者約50名
3. 地質巡検（6/14（日）），「富山県北東部の中生界」案内者：竹内 誠，参加者：26名）

<近畿支部>

1. 2015年度支部体制
支部長：宮田隆夫（神戸大学），代表幹事：三田村宗樹（大阪市大），行事：小林文夫（兵庫県立人と自然の博物館），会計：大串健一（神戸大），庶務：竹村静夫（兵庫教育大），幹事：奥平敬元（大阪市大），里口保文（滋賀県立博物館），和田穰隆（奈良教育大），田中里志（京都教育大），此松昌彦（和歌山大）

2. 行事報告

- ・地質の日イベント：
地球科学講演会「阪神淡路大震災以降の活断層の研究と成果」，5/10（13時30分～），日本地質学会近畿支部・大阪市立自然史博物館・地学団体研究会大阪支部共催，講師：岡田篤正，参加人数：150名
- ・市民向け見学会
自然観察会「岸和田市南部の地質」，10/25，きしわだ自然資料館，地学団体研究会大阪支部との共催，案内者：奥平敬元，参加人数：34名

<四国支部>

1. 第14回日本地質学会四国支部総会・講演会（12/19（土）），会場：高知大学学生会館2階
参加者：30名，個人講演：口頭発表11名，ポスター発表16名
2. 2015日本地質学会四国支部巡検（12/20（日），案内者：藤内智士・奈良正和）
概要：室戸市に露出する始新統・漸新統室戸層（四万十付加体）のタービダイト層・生痕化石・海底地すべり体の見学参加者：9名

<西日本支部>

1. 「地質の日」企画「身近に知る「くまもとの大地」」，御船町恐竜博物館との共催（地質体験イベント，5/10）
2. 西日本地質講習会（CPD講習会），山口大学理学部地球圏システム科学科との共催，6/11-12，参加者：講習会：34名，巡検：15名（のべ49名）。
3. 山口大学理学部「サイエンスワールド2015」への後援，10/18，山口大学吉田キャンパス
4. 日本地質学会西日本支部第167回例会，ならびに2015年度総会，2016/2/20（土），熊本大学黒髪南キャンパス理学部2号館（例会）口頭発表25件，ポスター発表24件。

特別講演 佐野弘好支部長（九州大学・教授）「炭酸塩岩からみた西南日本のジュラ紀付加体」，参加者：78名（総会）2015年度事業等活動総括・決算・監査報告，2016年度事業計画・予算・新役員について審議，2016年度事業として，地質の日くまもと大会：2016/5/7（共催），山口大学・サイエンスワールド：2016/10月（後援），西日本支部第168回例会・2016年度総会：2017年2月宮崎（主催）が揚げられた，懇親会：参加者34名

2. 執行理事会および理事会議決・承認事項

- 1) 理事会議長・副議長の選出
議長：小嶋 智，副議長：向山 栄
- 2) 125周年記念事業実行委員会の設置を承認。
委員：矢島道子委員長，天野一男，永広昌之，緒方信一，佐々木和彦，佃 栄吉，久田健一郎，平田大二，宮下純夫，渡部芳夫
- 3) 中期ビジョン検討WGの提言案「2.1概要」を，提言として承認。
- 4) 日本学術振興会賞へ1件の推薦を承認。
- 5) ロンドン地質学会との提携：Associated Society Statusの付与について了承。
- 6) 名古屋大学年代測定総合研究センター（榎並正樹センター長）より，名古屋大学宇宙地球環境研究所（仮称）が文部科学省の共同利用・研究拠点認定に応募に際し，要請に応じ，サポートレーターを出した。
- 7) 広報委員会の強化再編：委員長：坂口有人（広報担当理事，ジオルジュ担当）委員：松田達生（広報担当理事，geo-Flash，HP担当），小宮 剛（ニュース誌編集委員長），山口飛鳥（質問コーナー担当），北村有迅，内尾優子，新正裕尚，梅津慶太，部会選出委員：鶴澤由香（岩石），新井和乃（現行過程），及川輝樹（火山），橋本善孝（構造地質），久光敏夫（海洋地質）
- 8) キャンセルされた年会講演の講演要旨と，次年以降の年会での（キャンセル時と同内容の）再申込の可否は，次のように扱う。
・キャンセルされた講演要旨はJ-STAGEにはアップしない。
・地質学雑誌にキャンセルされた講演のリストを掲載する。
・再申込を受け入れ，再申込時の要旨に昨年（前回）キャンセルした旨を明記させる。
- 9) 「一家に1枚」ポスター企画募集：昨年の評価結果を踏まえて同様の提案・テーマ「地質災害」を修正し再度応募したが，結果は不採択。
- 10) 125周年記念事業実行委員会からの125周年記念事業内容・事業スケジュールについて了承。
- 11) 巡検案内の原稿を地質学雑誌の通常号に分けて掲載することを承認。→長野大会は121巻7号8号に掲載（白黒印刷）。冊子発行と同時にJ-STAGE上でカラー版を公開。
- 12) 長野大会特別講演会「地質地盤情報の利

活用と法整備」：長野大会の関連行事として開催を承認。

- 13) 選挙管理委員会の選出：2016年度代議員および役員選挙管理委員の承認。委員長は互選。委員氏名：金澤直人（委員長），上原康裕（委員長代行），高橋 聡，佐藤大介，谷口知寛
- 14) 125周年記念事業：地質学雑誌特集号の企画募集について，メール審議にて了承。
- 15) 地学オリンピック日本委員会の第8回オリンピック予選・本選の作問委員に委員1名を推薦。
- 16) 台湾地質学会と学術交流協定を締結，長野大会にて調印式を行う。
- 17) 連合のプログラム委員の推薦：（正）沢田 健／（副）小宮 剛
- 18) 2015年度各賞選考委員会委員長は委員間の互選により，天野一男理事が選出された。
- 19) 学術会議から3月に「科学研究における健全性について」が公表され，オーサーシップや二重投稿の義の在り方が示された。法務委員会へ地質学雑誌投稿編集出版規則等の見直しについて諮問した。
- 20) 高校「地学」（4単位科目）教科書の質向上に向けたプロジェクトの設置を承認。教科書検討メンバー（7名）：廣木義久（取りまとめ），伊藤 孝，生形貴男，中村教博，久田健一郎，星 博幸，三宅 明
- 21) 英国地質学会との共同プロジェクト「Arthur Holmes Meeting」に関連し，英国の日本大使館でのレセプションに，井龍会長が出席し挨拶をした。
- 22) 山田科学振興財団の研究助成へ1件推薦したが，2015年度の研究援助は不採択。
- 23) 海外からの年会参加者への対応：招待者，シンポジウム参加者等は，懇親会には招待する。年会参加費は，招待講演であることを踏まえ無料にする。
- 24) 地質学雑誌，投稿編集出版規則の細則2「地質学雑誌特集号刊行までの手順に関する細則」の改正について：細則2.1を改定した。（改正後の規則は学会HP，地質学雑誌122巻4号巻末を参照。）
- 25) 地質リーフレットたんけんシリーズ「伊豆大島と三原山～いま溶岩の上に立つ～」の企画提案を承認。
- 26) 2018年年会開催地の決定：2016年以降の開催地は次の通り。
2016年関東支部：日本大学（2016/9/10-12開催）
2017年四国支部：愛媛大学（2017/9/16-18開催）
2018年北海道支部：北海道大学
- 27) 次期Island Arc編集委員長の交代：海野・伊藤両編集委員長の任期満了（2015/12末）につき次期編集長候補として田村芳彦会員（JAMSTEC），武藤鉄司会員（長崎大学）が推薦され，了承した。
- 28) ネパール地質学会からの学術交流協定締結希望の申し入れ（佐藤比呂志会員経由）を進めることで了承。

29) 大韓地質学会の年会（10/28-30，済州島）に井龍会長が招待され，「日本の地質学の研究動向」の紹介をした。

- 30) 原子力学会より「福島復興・廃炉推進に貢献する学協会連絡会の開催提案」について，連絡会への参画は見送ることとした。
- 31) 地球惑星科学連合の男女共同参画委員会（2015年4月：堀 利栄会員から宮下由香里会員へ委員を交代）とキャリア支援委員会（委員：杉田律子理事）が統合され，「ダイバーシティ推進委員会」が発足（委員は宮下由香里会員を推薦）。
- 32) 野外調査技能資格「フィールドマスター認定制度」創設のための検討WGを設置。WGメンバー：坂口有人（山口大），須藤宏（応用地質（株）），成瀬 元（京都大），堀 利栄（愛媛大），松田博貴（熊本大），山本高司（川崎地質（株）），吉村実義（（株）ダイヤコンサルタント）
- 33) 各賞選考委員会（天野委員長）は各賞選考検討委員会を設置し，日本地質学会賞，小澤儀明賞選考の諮問をした。
指定委員：石渡 明，井龍康文，乙藤洋一郎，川幡徳高，斎藤文紀，脇田浩二，小嶋 智（委員長），山路 敦，前川寛和，伊藤 慎，海野 進
Island Arc賞については，Island Arc編集委員会に選考を諮問した。
- 34) 2016年度の選挙立会人として，巖谷敏光（産総研），村上瑞季（早大）の両会員を選出した。
- 35) 防災学術連携体へ参画（入会）した。委員として齋藤 真常務理事（地質災害委員長），堀内昭子（学会事務局）の2名を登録。
- 36) 年会の緊急時対応指針：「一般公開事業の実施の際の警報等発令時及び地震発生時の対応指針」を改正し，「日本地質学会学術大会等に関する緊急時対応指針」とし，内容を加筆修正した。詳細は学会HP参照。
・地震発生および特別警報や暴風警報により年会や一般公開行事の開催が困難な場合には大会実施委員会及び執行理事会が相談の上，中止とする。中止の告知はホームページでおこない，電話での対応をおこなう。
・年会行事は会期中に延期可能な場合を除き，代替実施はおこなわない。
・地域的な災害，交通事情などによって，決められた時間までに年会会場に来ることができない場合は，発表を取り消しにする。この場合は，講演要旨もJ-stageには掲載しない。
- 37) 長瀬たんけんマップの刊行を承認。
- 38) 名誉会員推薦委員会委員の選出。委員長：山本高司
・階層別委員（4名）：官公庁：田中裕一郎（産総研），小中高教員：会田信行（東海大学），会社：足立勝治（アジア航測），大学：鈴木和博（名古屋大名誉教授）

・職責委員（各支部長7名）：竹下 徹，土谷信高，有馬 眞，原山 智，宮田隆夫，榊原正幸，佐野弘好

・理事会推薦委員（1名）：笠間友博理事

39) 優秀ポスター賞のエントリー制を承認。2016年の年会から実施。

40) 総会関連行事：講演会「日本の地質学：最近の発見と応用2016」は，次の4講演を承認。池原 研（産総研）：地震・津波と深海堆積物の関係（タービダイト古地震学）。宮川歩夢・大坪 誠（産総研）：slip tendencyを用いた活断層活動度の評価。吉田英一（名古屋大学）：ノジュールの成因に関する研究。兵頭政幸（神戸大学）：地磁気と気候変動の関連性に関する研究

41) 「Island Arc」は2016年（vol.25-1）から刊行回数を年6回に変更のため，Wiley社との契約書更新を承認。

42) 次期の日本ジオパーク委員会（JGC）委員の推薦：ジオパーク支援委員会として平田大二理事を推薦。

43) 2016年地球惑星科学連合ユニオンセッション「連合は環境・災害にどう向き合っていくのか？」の講演者として栗本史雄会員を推薦。

44) フィールドジオロジー全9巻（共立出版）の電子書籍化及びそれに伴う著作権料（印税）を学会に寄付する件についての出版社からの提案にたいしては，著者全員の了承を得て，承諾した。

45) 東京桜上水大会の委託業者はメール審議のうえ，アカデミックプレインズに決定。

46) 大学入試センター長に対し「平成28年度大学入試センター試験の地学関連科目に関する申し入れ」を3/15付で提出。

47) 第7回惑星地球フォトコンテストの審査結果（応募総数273点）：最優秀賞1件，優秀賞2件，ジオパーク賞1件，ジオ鉄賞1件，スマホ賞1件，入選7件，佳作20件を選出。

48) 2016年度地質調査研修は講師との協議の結果，春季は中止，秋季は実施予定。

49) 高等学校理科用『地学』教科書の記述内容に関する意見書の提出をメール審議にて12月28日付で承認。同日付で数研出版（株）および（株）新興出版社啓林館に意見書を提出。

50) 理事会推薦監事候補者について：外部監事候補者として，現監事の山本正司氏の推薦をメール審議し，2016年2月8日付で承認。

51) 「県の石」の選定：最終案をメール審議にて2016年3月16日付で承認。

52) 投稿編集出版規則等の改正：国際基準および学術振興会の指示に則り，法務委員会の答申を受け，次の点に留意して投稿編集出版規則等を改正した。（改正後の規則は学会HP，地質学雑誌122巻4号巻末を参照。）

・文科省の要請を受けた学術振興会からの

要請により，オーサシップと二重投稿に関する定義とそれらが順守されない場合の対応の明確化

・博士学位論文の公開と著作権－地質学雑誌におけるプライオリティ

53) 2015年度事業報告・決算案を承認した。【1号議案】

54) 次の25名の会員を50年会員として顕彰することとした。

石田 高，石原舜三，上野三良，上野輝彌，植村和彦，遠藤忠慶，小川勇二郎，衣笠善博，郡寄隆次，小玉喜三郎，小西 勇，酒井豊三郎，佐藤 武，白石正一，鈴木博之，鈴木盛久，田崎和江，田宮良一，野口寧世，堀田信子，堀 信行，宮内 彰，吉田鎮男，渡邊一徳

55) 2016年度事業計画および2015年度予算案を承認した。【3号議案，4号議案】

56) 名誉会員推薦委員会から候補者として提案された，熊井久雄会員を総会に推薦することとした。【5号議案】

57) 各賞選考委員会より提案された下記の各賞受賞者を承認した。（推薦文は1号議案資料2参照）

・日本地質学会賞（1件）

荒井章司（金沢大学大学院自然科学研究科）対象研究テーマ：かんらん岩およびかんらん岩起源物質の解析による地域・地球発達史

・日本地質学会国際賞（1件）

Roberto Compagnoni [ロベルト コンパニョーニ]（トリノ大学）対象研究テーマ：変成岩岩石学

・日本地質学会榊山雅則賞（1件）

野田博之（海洋研究開発機構）対象研究テーマ：断層と地震発生の力学

・日本地質学会 Island Arc 賞（1件）

授賞論文：Yamamoto, S., Komiya, T., Yamamoto, H., Kaneko, Y., Terabayashi, M., Katayama, I., Iizuka, T., Maruyama, S., Yang, J., Kon Y., and Hirata T., 2013. Recycled crustal zircons from podiform chromitites in the Luobusa ophiolite, southern Tibet. *Island Arc*, 22, 89-103.

・日本地質学会小藤文次郎賞（2件）

菅沼悠介（国立極地研究所）・岡田 誠（茨城大学理学部）・堀江憲路（国立極地研究所）・竹原真美（九州大学大学院理学府）・木村純一（海洋研究開発機構）・羽田裕貴（茨城大学大学院理工学研究科）・風岡 修（千葉県環境研究センター）

対象論文：Suganuma, Y., Okada, M., Horie, K., Kaiden, H., Takehara, M., Senda, R., Kimura, J., Kawamura, K., Haneda, Y., Kazaoka, O., and Head, M. J., 2015. Age of Matuyama-Brunhes boundary constrained by U-Pb zircon dating of a widespread tephra. *Geology*, 43, 491-494.

高柳栄子（東北大学大学院理学研究科）

対象論文：Takayanagi, H., Asami, R., Otake, T., Abe, O., Miyajima, T., Kitagawa, H. and Iryu, Y., 2015. Quantitative analysis of intraspecific variations in the carbon and oxygen isotope compositions of the modern cool-temperate brachiopod *Terebratulina crosseii*. *Geochimica et Cosmochimica Acta*, 170, 301-320.

・日本地質学会研究奨励賞（2件）

酒向和希（愛知教育大学大学院教育学研究科）

対象論文：酒向和希・星 博幸，2014，本州中部，中新統富草層群の古地磁気とテクトニックな意義。地質学雑誌，120，255-271。

金井拓人（早稲田大学大学院創造理工学研究科）

対象論文：金井拓人・山路 敦・高木秀雄，2014，混合ビンガム分布を適用したヒールドマイクロクラックによる古応力解析：中部地方の傾家花崗岩類における例。地質学雑誌，120，23-35。

・日本地質学会功労賞（1件）

檀原 徹（株式会社京都フィッション・トラック）

功労業績：放射年代測定等による地質学への貢献

・日本地質学会表彰（1件）

内藤一樹（産業技術総合研究所）

表彰業績：地質図のデジタルアーカイブの構築とその整備

58) 地質学雑誌のあり方を考えるタスクフォース委員会の設置について承認。

59) 「県の石」出版に向けてのプロジェクトチームの設置を承認。委員（4名）：井龍康文，辻森 樹，重田康成，門馬綱一（鉱物担当：非会員）

60) 北海道支部企画出版・監修「北海道地質百選（仮称）」の出版を承認。

61) 「海洋底調査の基本」の出版（共立出版）：企画当初（2006年）に，出版については承認されているが，相当年月を経ているため，改めて現理事会にて学会の企画・監修による出版物として出版するかの採決を行い，賛成多数で承認。

62) 5月21日開催予定の総会議案の承認。

63) 広報委員会は「県の石」選定に関して，文部科学省記者会での記者会見を5月10日に設定し，井龍会長，斎藤常務理事が対応した。

64) 「地質地盤情報の活用と法整備を考える会」に参画する。

65) 熊本地震被災者への対応：年会費および学術大会参加費の免除措置を行う。

66) 「The Geology of Japan」が英国地質学会より出版された。

2016年度事業計画基本方針

2015年度事業実績概要

2015年度における本学会の活動による成果は、以下のように要約できる。

長野での学術大会では、「日本の要で地質学ズラ」のテーマのもとに、一般シンポジウム「北部フォッサマグナ―東西日本の地質境界：過去、現在、そして未来―」、国際シンポジウム「東アジアのテクトニクスと古地理」、「法地質学の進歩」が開催され、609件の口頭・ポスター発表が行われた。また、市民講演会では三宅康幸氏による「信州の火山を知ろう」と塚原弘昭氏による「糸静構造線活断層地震が起きたとき、長野盆地・松本盆地の震災は」という2件の話題提供があり、防災に関心のある市民が多数参加した。昨年度の鹿児島での学術大会に続き、本大会でも活発な国際交流が行なわれ、上記のように2つの国際シンポジウムが行なわれたほか、大会期間中に台湾地質学会との学術交流協定が締結された。巡検は、市民向けのアウトリーチ巡検を含む、8コースが成功裏に催行された。また、大会期間中には、本学会が共催して、「地質情報展2015ながの知っていますか信濃の大地」が長野市生涯学習センターで行われた。あいにく、長野市では週末が父兄参観日であったためと思われるが、例年よりも来訪者が少なかったことは残念であった。本大会は地方での開催であったにも関わらず、922名もの参加者があり、活発な学術発表、国際交流、アウトリーチ活動が行われたことより、成功と総括できる。

地質学雑誌は本学会の根幹をなす月刊学術誌であり、その安定した出版と内容の充実が最重要である。しかし1990年代以来、投稿数が減少しており、2014年は1号あたりの掲載数が2～3編であった。この傾向は、2015年になっても改善されなかったため、地質学雑誌編集委員会は、学術大会の巡検案内書を地質学雑誌に収録することに踏み切った。これにより、一時的に原稿不足は解消された。国内外におけるオープンサイエンスの推進政策とも対応し、学術誌の電子化およびオープンアクセス化が進行している中で、地質学雑誌の出版体制は、議論のみが繰り返され、旧来の体制に踏みとどまっている。Island Arcは2011年の投稿数の大幅減と、その影響による2012年のページの激減から回復基調にある。しかしながら、インパクトファクターは、ここ数年間1.0をわずかに上回ったところで停滞しており（2015年の1.148）、ホットな話題の特集号、レビュー論文、地質標準（地質年代や標準試料）に関する論文等の掲載を企画する必要があると認識される。なお、研究活動における不正行為が社会問題化していることを重く受け止め、不適切なオーサiershipと二重投稿に対する対応を、地質学雑誌の投稿規定に加えた（←間もなく）、機関レポジトリに掲載済の論文が、地質学雑誌に投稿された場合の対応に関しては、二重投稿とみな

さないこととした。本学会がサポートし英国地質学会が発行する「The Geology of Japan」は、編集作業が完了し、2016年3月に出版された。本書籍は、これまでに出版された数冊の「Geology of Japan」というタイトルの書籍とは異なり、日本地質学会の会員が、企画から関わったものであり、日本地質学会会員の学術面の充実ぶりを表している。

本学会は、地質災害に対して、長年の研究成果に基づく地質情報に精通する学術団体として社会の期待する情報を迅速に発信する使命がある。今年度発生した大規模地質災害のうちネパール地震については、会員に依頼して地質と発生メカニズムの解説ページを作成し、ニュース誌にも掲載した。また、羅臼町の地すべり、口永良部火山の噴火については、それぞれ道総研地質研究所、産総研地質調査総合センターの情報にリンクする形で、地質学的背景を学会HPで迅速に発信した。また、阿蘇中岳の噴火写真を会員所属の博物館から提供を受けニュース誌に掲載した。

普及活動に関しては、ジオパーク推進活動がさらに前進し、現在、国内ジオパーク総数は36に達し（Mine秋吉台、三島村・鬼界カルデラ、栗駒山麓ジオパークが新たに加わる）、うち世界ジオパークは8地域（アポイ岳が新たに加わる）となり、着実に増加しつつある。地学オリンピックも参加者が着実に増加しており、今年度も世界大会で金メダルを獲得した。リーフレットや電子書籍などの新しい企画が着実に進行している。書籍出版では、本学会編の地方地質誌のうち未出版であった、東北・四国が脱稿し、間もなく刊行予定である。また、リーフレット「長瀬たんけんマップ」の査読が終了し、2015年度内には出版予定である。2010年発行の「城ヶ島たんけんマップ」は3000部を増刷した。地質の日の取り組みや惑星地球フォトコンテストが定着し、「友の会」や若手会員を主な対象とした情報交換サービス（SNS）「ちーとも」の利用が増加しつつある。本学会が一般に販売する広報誌「ジオルジュ」も順調に発行され、高い評価を得ている。

日本地質学会選「県の岩石・鉱物・化石」の選定に関しては、選考委員会案に基づいて、執行理事会案が作成された。今後、理事会および支部の意見を聞き、最終案を確定させ、社会の周知活動および出版に向けた各種作業へと進みたい。

国内の関連業界や社会への対応としては、本学会への業務の依頼や委託に対応できる体制のもと、取り組みが充実・拡大する取り組みを続けている。また、地質調査研修を秋に実施した。

地学教育に関しては、地学の教科書間で記述が大きく異なっているという問題に対して、学会として取り組むため、ワーキンググループを組織して、検討を開始した。結果と提言をまとめ、関係機関・関係者に送り、改善を求めてゆく予定である。

国際交流として特筆すべき件として、9月

25日にロンドンにおいて、ロンドン地質学会と日本地質学会の共催企画であるArthur Holmes Meeting 2015が開催されたことが挙げられる。両学会の共催企画は2014年に鹿児島で開催された日本地質学会の学術大会でも行なわれており、今回はそれに続く2回目の企画であった。今年度のシンポジウムは、世界で最初に設立されたロンドン地質学会の本部で行なわれ、その後のレセプションは在英日本大使館が行われ、本学会の歴史の中でも、重要なイベントの一つとして位置づけられる。また、前記のように、長野での学術大会において台湾地質学会との学術交流協定を締結した。また、2つの国際シンポジウムを開催した。現在、ベトナム地質学会およびネパール地質学会との学術交流協定の締結を検討中である。今後の交流をさらに活性化し、東アジアの地質学において主導的な地位を占めることを目指したい。

2016年度事業計画概要

以上の成果を踏まえて、特に以下に力点をおく。

1. 東京における学術大会を成功させる。特に、国際シンポジウムを積極的に支援し、学術大会の国際化を図る。
2. 地質学雑誌およびIsland Arcの安定した出版と優れた論文の確保のため、専門部会等と協力して、投稿数増に努める。また、Island Arcに関しては、出版社（Wiley）と共同してプロモーション活動を行なう。
3. 学術交流協定を締結している大韓地質学会、タイ地質学会、モンゴル地質学会、ロンドン地質学会、台湾地質学会との連携・交流を強化する。また、ベトナム地質学会およびネパール地質学会との学術交流協定締結を検討する。
4. 地質図の記号等に関するJIS A0204、ベクトル数値地質図に関するJIS A0205ならびに国際標準の整備に対応して、それらの普及に努めるとともに、改訂に主体的に関与する。また層序単元登録を推進する。
5. 教育現場の更なる地学普及・振興を図るため、本年度8月に開催される国際地学オリンピック大会を支援する。さらに引き続き、地学オリンピックに対する支援を継続する。
6. 日本の地質学を代表する立場として、社会に対して学会声明や会長コメントなどを積極的に表明する。そして必要に応じてプレスリリースを行い、地質学のプレゼンスを示すとともに、社会的立場の向上に貢献する。
7. 学会ホームページ（HP）、ソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）「ちーとも」、広報誌「ジオルジュ」、リーフレット、フォトコンテスト、講演会などを通じ、社会への情報発信を強化する。また、ジオパーク運動への支援を強化し、重要な露頭の保全などに取り組む。特に、「県の石」に関しては、各種メディアを通

じた宣伝を行うと同時に、各県において公式に認定されるように関係機関に働きかける。また、「日本地質学会選定の岩石・鉱物・化石」の刊行に向け、学会をあげて取り組む。

8. 地質技術者の継続教育の充実に向けて、企業会員向けのシンポジウム・研修会等を関連学会と実施しCPD発行によりサービス強化を図る。また、学生に向けた地質企業への就職支援として学術大会で実施している「若手会員のための業界研究サポート」の継続と内容充実に取り組む。

9. 以下の防災・減災に対する取り組みを積極的に進め、社会の防災・減災の活動に地質学の存在意義を高める。

- 1) 地質学的観点からの調査・研究の推進
 - 2) 災害に関する地質学的知識や情報の提供・発信
 - 3) 自然災害に関する地学教育の推進
10. 学会の組織活動を全般的に強化する。支部や専門部会の活動の活発化、理事の役割の強化、会員サービスの強化（就職支援、地質技術者の継続的な専門教育（CPD）など）を図る。若手の人材育成とシニア人

材の活躍の場を広げる。さらに、収入および支出を見直し、学会の事業が停滞しないように留意しつつ、財政を健全化する。

11. 2018年の本学会設立125周年に向け、記念事業の計画を策定するなど、準備を本格的に始める。
12. 新規の入会促進、入会者の定着、シニア会員の引き留め策を講じる。
13. 地質調査研修の資格化として、フィールドマスター認定制度を産業および教育関係者と連携して制度設計する。

以上